# FHIR環境構築 手順書

2021年3月29日

第1.0版

# 目次

- 1. 本手順書について
- 2. システム構成
- 3. Hapi FHIRのセットアップ
  - 3. 1. Dockerのインストール
  - 3. 2. Hapi FHIR JPA Serverのインストール
- 4. Hapi FHIRへのデータ登録
  - 4. 1. FHIR Data Creatorの設定
  - 4. 2. FHIR Data Creatorの実行
  - 4.3.処理結果ログの確認
- 5. FHIR DASHBOARDのセットアップ
  - 5. 1. R Shiny Serverのインストール
  - 5. 2. FHIR DASHBOARDの適用
- 6. FHIR DASHBOARD使用方法
  - 6. 1. 初期画面
  - 6.2.検索結果一覧
  - 6.3.患者情報明細表示
- 7. FHIR Data Creator ソースコードの使用方法
  - 7. 1. FHIR Data Creator 処理の流れ
  - 7. 2. Visual C# プロジェクトの作成
  - 7. 3. 必要なパッケージのインストール
  - 7. 4. App.configの修正
  - 7.5.データ移行元テーブルの作成

### 1. 本手順書について

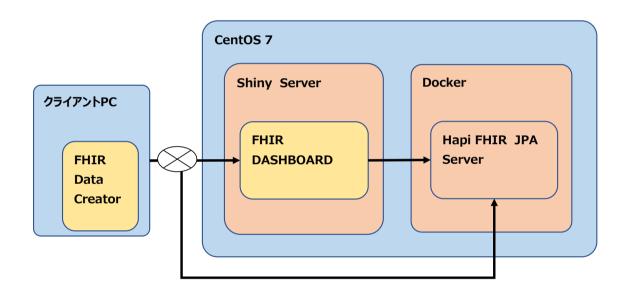
HL7 FHIRの検証環境を構築するための手順をご説明いたします。

※画面イメージについてはダミーデータを用いているため、実際のデータとは

データ数・画面に表示される値が異なりますのでご留意ください。

※各パッケージのインストールには、インターネット接続が必要です。

### 2. システム構成



Docker	https://www.docker.com/
	本手順書では、バージョン20.10.3を使用します。
Hapi FHIR	https://github.com/hapifhir/hapi-fhir-jpaserver-starter
	本手順書では、バージョン5.2.0を使用します。
Shiny Server	https://rstudio.com/
	本手順書では、バージョン1.5.16.958を使用します。
FHIR Data Creator	所定のレイアウトで作成したデータベースから取得したデータを、
	Hapi FHIRに登録するツールです。
FHIR DASHBOARD	FHIRに登録したデータを簡易的に参照するツールです。

### 3. Hapi FHIRのセットアップ

サーバにDockerをインストールし、Docker上でHapi FHIRサーバを動作可能にします。
---------------------------------------------------

### 3. 1. Dockerのインストール

対象サーバに root 特権のあるユーザでログインします。

既存の yum パッケージを更新します。

# yum update

# yum upgrade

公式の安定版 Yum リポジトリを設定します。

# yum install -y yum-utils device-mapper-persistent-data lvm2

# yum-config-manager --add-repo https://download.docker.com/linux/centos/docker-ce.repo

Docker をインストールします。

# yum makecache fast

# yum install -y docker-ce

以下のコマンドを実行し、Dockerのバージョン情報が表示されればインストール完了です。

# docker version

Dockerを起動します。

# systemctl start docker

### 3. 2. Hapi FHIR JPA Serverのインストール

Hapi FHIRのDockerイメージをDockerHubより取得します。Dockerが起動している状態で実行します。

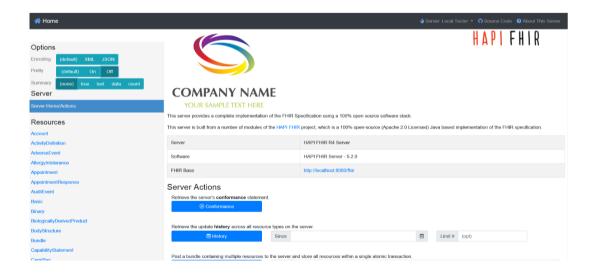
# docker pull hapiproject/hapi:latest

Hapi FHIRのコンテナを新規作成し、起動します。

# docker run -p 8080:8080 hapiproject/hapi:latest

Hapi FHIR起動後、ブラウザから「http://[ホストのIPアドレス]:8080」にアクセスします。

以下のような画面が表示されれば成功です。



以下のコマンドを実行すると、コンテナの一覧が表示されますので、停止するコンテナの名前を確認します。



停止するコンテナ名を指定し、以下のコマンドを実行します。

```
# docker stop [停止するコンテナ名]
```

再度起動する場合は起動するコンテナ名を指定し、以下のコマンドを実行します。

# docker start [起動するコンテナ名]

## 4. Hapi FHIRへのデータ登録

FHIR Data Creatorファイル構成は以下のようになっています。

FhirDataCreator	
├── logs	
- FhirDataCreator.exe	
├── FhirDataCreator.exe.config	
├── HI7.Fhir.ElementModel.dll	
├── HI7.Fhir.ElementModel.xml	
├── HI7.Fhir.R4.Core.dll	
├── HI7.Fhir.R4.Core.xml	
├── HI7.Fhir.Serialization.dll	
├── HI7.Fhir.Serialization.xml	
├── HI7.Fhir.Support.dll	
├── HI7.Fhir.Support.Poco.dll	
├── HI7.Fhir.Support.Poco.xml	
├── Hl7.Fhir.Support.xml	
├── HI7.FhirPath.dll	
├── HI7.FhirPath.xml	
├── Newtonsoft.Json.dll	
├── Newtonsoft.Json.xml	
├── NLog.config	
├── NLog.dll	
├── NLog.xml	
├── System.ValueTuple.dll	
└── System.ValueTuple.xml	

### 4. 1. FHIR Data Creatorの設定

FhirDataCreator.exe.configをテキストエディタ等で編集します。

### データベース接続設定

### Hapi FHIR接続設定

```
<add key="FHIR_BASE_URL"
value="http://[xxx.xxx.xxx.xxx]:8080/fhir"/> ・・Hapi FhirサーバのURLを指定します。
```

### 4. 2. FHIR Data Creatorの実行

手順4. 1の設定後、FhirDataCreator.exeをダブルクリックで実行します。

コンソール画面が表示され、処理状況が以下のように表示されます。

### PROGRAM START

患者情報を登録しました。1件目 患者ID:1234 ID:1

登録処理が完了すると、コンソール画面に「PROGRAM END」と表示されます。

何かボタンを押すと、処理を終了します。

```
PROGRAM START

患者情報を登録しました。1件目 患者ID:1234 ID:1

:

患者情報を登録しました。100件目 患者ID:4321 ID:7890

PROGRAM END
```

### 4.3.処理結果ログの確認

登録処理実行時、FHIR Data Creator資源の「logs」フォルダに実行ログが出力されます。

登録処理完了後に実行口グを確認し、処理エラーが発生していないことを確認してください。

### 実行ログの例

```
2021-03-20 10:30:26.0000 [INFO] ===== 処理を開始します。 =====
2021-03-20 10:30:42.0000 [INFO] 患者情報を登録します。患者ID:12345
2021-03-20 10:30:55.0000 [INFO] 患者情報を登録しました。患者ID:12345 ID:10
- 2021-03-20 10:30:55.0000 [INFO] 身長・体重を登録します。
-
2021-03-20 10:30:59.0000 [INFO] 身長・体重を登録しました。 2件
2021-03-20 10:30:59:0000 [INFO] 
2021-03-20 10:30:59:0000 [INFO] 
2021-03-20 10:31:10:0000 [INFO] 
2021-03-20 10:31:10:0000 [INFO] 
病名を登録します。
2021-03-20 10:31:13.0000 [INFO] 病名を登録しました。 3件
2021-03-20 10:31:13.0000 [INFO] 既往歴を登録します。
2021-03-20 10:31:15.0000 [INFO] 既往歴を登録しました。 3件
2021-03-20 10:31:15.0000 [INFO] レジメンを登録します。
2021-03-20 10:31:17.0000 [INFO] レジメンを登録しました。 1件
2021-03-20 10:31:17.0000 [INFO] 処方(注射)を登録します。
2021-03-20 10:31:18.0000 [INFO] 処方(注射)を登録しました。 2件
2021-03-20 10:31:18.0000 [INFO] 処方(処方)を登録します。
2021-03-20 10:31:21.0000 [INFO] 処方(処方)を登録しました。 4件
2021-03-20 10:31:21.0000 [INFO] ===== 処理を終了します。 =====
```

### 5. FHIR DASHBOARDのセットアップ

R Shiny Serverをインストールし、Hapi FHIRに登録したデータを参照するツールを使用可能にします。

### 5. 1. R Shiny Serverのインストール

EPELをインストールし、サードパーティ製のパッケージをインストール可能にします。

# yum install epel-release

Rをインストールします。

# yum install R

FHIR DASHBOARDの動作に必要なRパッケージをインストールします。

- ·R Shiny
- # R -e "install.packages('shiny', repos='http://cran.rstudio.com/')"
- ·Shiny DashBoard
- # R -e "install.packages('shinydashboard', repos='http://cran.rstudio.com/')"
- ・JSONパーサー
- # R -e "install.packages('jsonlite', repos='http://cran.rstudio.com/')"
- DataTable
- # R -e "install.packages('DT', repos='http://cran.rstudio.com/')"

Shiny Serverをインストールします。

# wget https://download3.rstudio.org/centos7/x86\_64/shiny-server-1.5.16.958-x86\_64.rpm

# yum install --nogpgcheck shiny-server-1.5.16.958-x86\_64.rpm

インストール完了後、Shiny Serverを起動します。

# systemctl start shiny-server

※Shiny Serverを停止する場合は、以下のコマンドを実行します。

# systemctl stop shiny-server

Shiny Serverで使用するポートを開放するため、Firewallの設定を変更します。

# firewall-cmd --add-port=3838/tcp --permanent

# firewall-cmd --reload

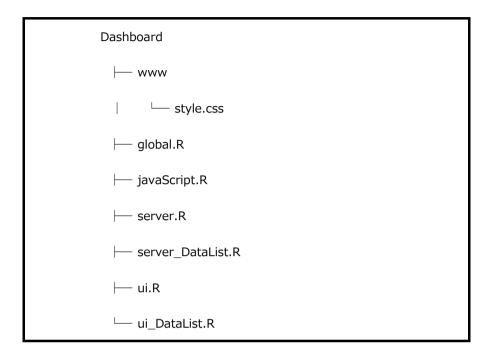
ブラウザから「http://[ホストのIPアドレス]:3838」にアクセスします。

以下のような画面が表示されれば成功です。

# What's Next? Now you're ready to setup Shiny — if you haven't already — and start deploying your Shiny applications. If you see a Shiny application running on the right side of this page, then Shiny is configured properly on your server and already running an example. Bravol You can see this application on your server at /sample-apps/hello/. If you see a gray box or an error message, then there's a bit more work to do to get Shiny running fully. You can continue with the installation instructions or

### 5. 2. FHIR DASHBOARDの適用

FHIR DASHBOARDのファイル構成は以下のようになっています。



FTPにて、FHIR DASHBOARDの資源「Dashboard」をディレクトリごとサーバの「/sev/shiny-server」に配置します。

「/srv/shiny-server/Dashboard/global.R」に記載されているURLを、以下のように修正します。

FHIR\_URI <- "http://[ホストのIPアドレス]:8080/fhir"

ブラウザから「http://[ホストのIPアドレス]:3838/Dashboard」にアクセスします。

以下のような画面が表示されれば成功です。



### 6. FHIR DASHBOARD使用方法

### 6. 1. 初期画面

画面起動時の状態です。検索条件を指定し、「検索」ボタンをクリックすると、検索条件に一致する 患者情報を一覧表示します。

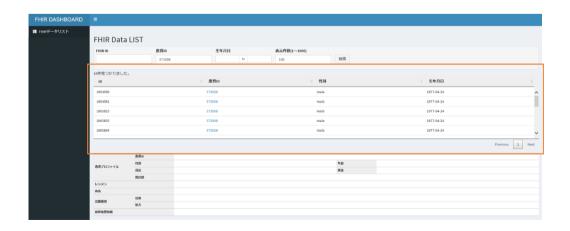


FHIR ID	FHIRリソース「Patient」の「ID」を指定して検索する事ができます。
患者ID	施設のローカルIDを指定して検索する事ができます。
生年月日	患者の生年月日を範囲指定で検索する事ができます。
表示件数	検索結果に表示する件数を指定します。最大表示件数は1000件です。

### 6.2.検索結果一覧

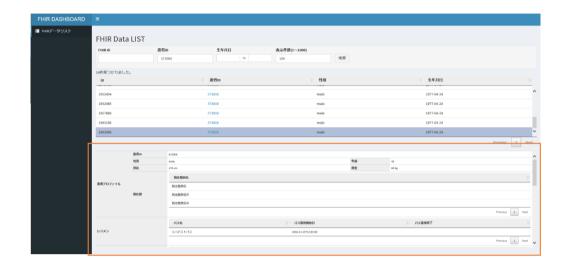
検索条件に一致した患者情報を一覧表示します。

患者IDのリンクをクリックすると、選択した患者情報の明細を表示します。



### 6.3.患者情報明細表示

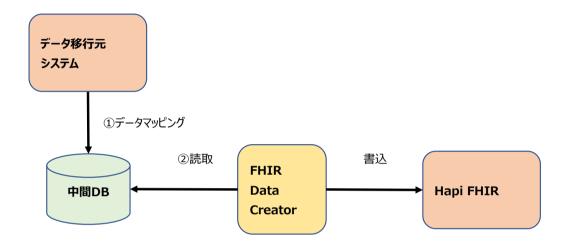
検索結果一覧で選択した患者情報の詳細を表示します。



### 7. FHIR Data Creator ソースコードの使用方法

本書の手順「4. Hapi FHIRへのデータ登録」で使用した、FHIR Data Creatorをソースコードから使用する場合の手順を示します。

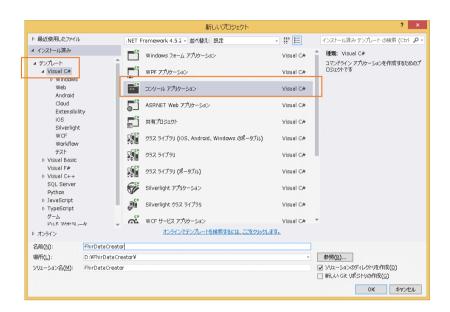
### 7. 1. FHIR Data Creator 処理の流れ



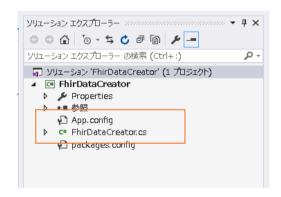
- ①あらかじめ、Hapi FHIRへのデータ移行元となるシステムから、手順「7. 5. データ移行元テーブルの作成」で作成するテーブルへデータ項目をマッピングし、データ投入します。
- ②FHIR Data Creatorは中間DBからデータを読み取り、FHIRのRESTful APIへ投入できる形に編集します。
- ③FHIR Data Creatorは②で編集したデータをHapi FHIRサーバへ送信し、FHIRリソースへ登録します。

### 7. 2. Visual C# プロジェクトの作成

Microsoft Visual Studio 2015にて、Visual C# コンソール アプリケーションのプロジェクトを作成します。



作成したプロジェクトに、配布の「App.config」、「FhirDataCreator.cs」を追加します。



### 7. 3. 必要なパッケージのインストール

NuGetパッケージマネージャーにて、以下のパッケージをインストールします。

HL7.Fhir.R4	バージョン3.0.0を使用します。
Nlog	バージョン4.7.9を使用します。
Nlog.Config	バージョン4.7.9を使用します。

### 7. 4. App.configの修正

本書の手順「4. 1. FHIR Data Creatorの設定」に従い、App.configを修正します。

### 7. 5. データ移行元テーブルの作成

配布の「公開用ddl.txt」を任意のDBサーバ上で実行し、中間DB用のテーブルを作成します。

移行元のシステムのデータを中間DBに投入後、FHIR Data Creatorを実行すると、

Hapi FHIRのリソース上に中間DBのデータが作成されます。